

2023 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [尾道市立瀬戸田中学校] 担当教諭名 [梶谷 昇平] (2年1・2組 48名)
 相手国・地域 [インドネシア]
 海外学校名 [SMP Negeri 6 Surabaya] 担当教諭名 [Yazid Ahmad]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	アートマイル国際協働学習プロジェクト	16
	学級活動	アートマイル国際協働学習プロジェクト	1
	放課後	アートマイル国際協働学習プロジェクト校内報告作成	2

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	平和と公正をすべての人に
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	「将来にわたって暴力や戦争がなくみんなが仲良く平和に暮らしたい」というメッセージを壁画に込めました。
 	

■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> 海外の生徒との交流は異なる視点を知ることや英語でのやり取りや聞き取りの良い体験となった。 テーマに沿って調べ、他者と何を話し合えば良いか考えて進めることができた。 時差が少なくZoomでの交流を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 交流は、調べ学習のときに実施していた方が論点を決めたあとの交流の内容を深めやすいと感じた。 年間のスケジュールシートを個別に作り、相手校と確認した方が効率性は上がったと思った。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> 「自分たちが何かをすることで、他の世界にどのような影響が出るのか等を考えるようになった。」と振り返っており、自分は無関係ではないと考えられるようになった。 「異文化についてお互いに交流をして、新たな視点を発見することの楽しさを知ることができた。」と振り返っており、背景の違う同世代の生徒から刺激を受け、協働学習に意欲的に取り組むようになった。 「世界ではそれぞれ全く違う考え方を持っている人がたくさんいて、わかり合えないと思っていたが、交流を通して同じ目標を持つことができると知った。」と振り返っており、不安から始まった協働学習だったが、交流を通じてわかり合えるという認識を持つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 戦争だけが問題ではなくジェンダーや貧困も平和に繋がる問題だと意識できた。 公正という捉え方が相手校と少し違うところがあるのは新しい視点を持つ良いものであった。 話し合いややり取りを重ねていく中で、互いに共通した認識があり、場所が違っても共通した感覚を持っているのだと再認識できた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
調べ学習 テーマ学習	5月 ～ 7月	SDG16「平和と公正をすべての人に」の中の16のターゲットから何が課題なのかを調べる。 調べた内容を発表し論点を絞り、考えをまとめる。	平和と公正がどの内容を指すかを16のターゲットから深掘りすることで、今まで知らなかったことや新しい視点を持つことができていた。	総合6
共有 相手と意見交換	9月 10月	10月に2回Zoomによる交流を行う。1回目は自己紹介とお互い調べたことや課題についての共有、2回目はお互いの質問への回答とデザインの方向性についての交流を行った。	Zoomでの交流は相手校の話を集中して聞いていた。資料を見ながら話している内容を生徒同士が確認をしていた。	総合8
融合 メッセージ作成	11月	学習や交流から壁画に込めるメッセージを考え、相手校と共有しまとめる。 壁画のデザインの決定。	交流をもとに個々にどんなメッセージを込めるかを考え、デザインのアイデアを考えることができた。時にはお互いに話をして意見交換する様子が見られた。	総合2
創造 壁画制作	12月	壁画の制作。 相手校へ壁画を送る。	壁画制作は完成がどのようになるのかを想像しながら制作をしていた。 校内報告書(プレゼン)の作成。	放課後2
評価 振り返り 自己評価	2月 3月	振り返り。 壁画の受け取り。	振り返りを通してインドネシアとの協働学習で自分がどんな成長ができたか考えていた。また、完成した作品を見て生徒は喜んでいました。	学活1

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化を理解する力	4	部活動のあり方や相手校の昔ながらの遊びを知った場面で、自分たちと比較して考えていた。 相手校の様子を動画や画像で見た場面では相手の様子や話す内容を理解しようと見入ることができており、インドネシアの魅力を探していた。
主体的に考え行動する力	4	SDG16のターゲットを見て、グループ等で話し合っていた場面で、自分の思ったことを発言して話し合っていた。 オンラインでメモなどで振り返りながら取り組むことで、壁画にどんなメッセージを込めてどんなデザインにするかを考えることができた。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	インドネシアの生徒の意見を聞いていた場面で、自分たちの意見と比較して考えていた。 SDG16の調べ学習で、生徒同士が原因を話し合っている場面では、資料を根拠に話し合いをして考えを深めていた。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	2	Zoomの交流の場面で、リーダーは英語でやり取りをする努力をしていたが他生徒はただ聞いているだけだった。 Zoomの交流場面で、お互いの報告を伝え合う場にとどまっていた。少数での打ち合わせの交流の方が対話という感じであった。
想いを表現する力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	平和を絵にする場面で、自分の思いを表現していた。 壁画を制作している場面で、描くイラストがどういった意味を持つかを考えながら描いていた。